

# 令和六年度 学校評価（総括）

AICJ 中学・高等学校

1 教科指導

自 己 評 価				評価サイクルの検証	次年度への課題と 今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	評価の根拠	
【教科指導】 授業、学習指導 の充実と生徒の 学力向上支援体 制を確立する。	(全校レベル) 主体的な学習意欲の 育成を図り、難関大 学入試を見据えた学 力を定着させる。  (下位組織レベル) 1)教育課程の充実  2)教員の指導力強化  3)放課後の課外学習  4)土曜日の学習活動  5)長期休暇中の学習  6)家庭学習時間の向 上  7)道德教育の充実  8)学習発表会の充実	評価指標 1)①中学校は、イマージョン教育、道德、英検の取得に重点をおく。高校では、5教科かつ入試科目 に重点をおきつつ、新教育課程を意識しながら取り組んでいく。 ②欠席者に対して授業内容の確認等を行えるように Google クラスルームを活用する。 2)①他の教員の授業を参観する。 ②予備校等が主催する入試研究会等の研修に参加する。また、大学入試改革・IB 教育関係・ICT 教育・新教育課程に関係する研修会等にも参加する。 3)①中学・高校とも英検の 2 次対策として面接練習等の授業を定期的 to 実施する。 ②高校対象に演習を中心とした、放課後の課外授業を実施する。 ③大学入試に向けて、課外授業を実施し、進路に合わせ生徒が選択して受講する。 ④高校対象に英語の対策に特化した課外授業を設定する。 ⑤総合型選抜や推薦入試を見据えた小論文対策を実施する。 4)土曜日に自習室を開放し、質問対応等できるように教科担当を考慮して配置する。定期試験前に 集中して行う。 5)①中学対象に演習、復習を中心とした学習会の実施。 ②高校対象に、集中勉強会を夏期・冬期・春期の 3 回実施。 ③中学・高校とも、希望者に対して短期留学、語学研修等を案内実施する。 6)①寮での短期入寮制度の実施（定員に余裕がある時期に限る） ②家庭学習の質、量を改善するための学習記録の指示をする。 ③Google クラスルームや模試業者の提供システムを活用した家庭学習の状況等の調査を実施。 ④家庭学習用アプリ等を活用し、毎日の学習状況を把握する。 7)中学 1 年から高校 2 年で縦割り班を作成。 ASC 活動(道德活動)、全学年で縦割り班を利用して毎日の清掃を実施する。 8)スピーチ・ディベートデー（サイエンスデー）の実施  活動計画 1)新教育課程に完全移行して初の大学入試への対応を行う。 2)①他の教員の授業を参観することにより、授業改善を図る。 ②外部からの情報を元に、大学入試、新教育課程への早期、柔軟な対応をする。 3)①英語力向上の判断材料として、英検取得を目標としていく。 ②、③学力の定着、大学入試を見据えた授業展開を実施。 4)土曜日の自習室を開放するとともに、教員を配置し、質問等にも対応する。 5)①、②復習、反復練習を中心に行い、基礎学力の定着を図る。 ③長期休暇だけでなく、学校生活に影響を与えない状況を確認しながら多くの生徒が参加できる ように案内を行う。 6)①短期入寮で学習習慣の定着を図るとともに、生活リズムの改善を図る。 ②③④個々の生徒の学習状況、生活状況を把握し改善に努める。また、電子上で管理すること で、集計、データ分析による教員への負担の軽減も図る。 7)多学年との交流の中であらゆる問題についてディスカッションを行い、道德心の向上を図る。 上級生が下級生に対して教えるという環境をつくり、双方に良い影響を与える。 8)英語によるプレゼンテーション能力、スピーチ力の向上を図る。また、理科実験について企画 し、その内容・考察等について英語でポスターの作成、発表を行う。	1)A  2)B  3)A  4)A 5)A 6)B  7)B 8)A	1)①英検の取得状況は向 上した。入試科目に重点 を置くことで、多くの生 徒が大学進学することが できた。 ②Google クラスルーム の活用が当然のこととし て定着してきた。 2)①IB コースでは、他 の教員による評価等も実 施できた。 ②必要に応じて希望者が 参加した。 3)①英検 2 次対策、⑤推 薦対策等の担当を決める ことで効率よく実施でき た。 4)実施はできたが、参加 する生徒は少なかった。 5)①夏期のみの実施とな ったが、各学年で内容等 工夫して実施できた。 ②予定通り実施でき、成 果も得られた。 ③複数のプランについて 案内・実施することがで きた。 6)①女子寮は定員に達し ており不可、男子寮は入 寮自体の募集を停止した ため、要検討。 ②③各学年で実施した。 ④一部生徒の利用に留ま った。 7)ASC 活動については 年 3 回実施することが できた。外部の講師を招 いて実施することもでき た。 8)中 1～3 で実施した。 中 3 のサイエンスデー では、外部講師の方を招 き、理科に関する講演会 も実施した。	1)①英語力・英検取得の 向上、新課程の大学入試 においても、生徒の希望 する進路実現に向けて取 り組む。 ②未だに教員によって活 用の差があるため、繰り 返し徹底していく必要が ある。  2)①期間を決める等して 実施したい②高校担当教 員中心に取り組んでいき たい。  3)①②③④⑤生徒の状況 等に合わせ、柔軟に対応 していきたい。  4)引き続き実施し、学習 習慣が定着していない生 徒に個別で声を掛けるな どしていきたい。  5)①②は教員、生徒に負 担のない範囲で実施して いきたい。③希望者も増 えているので、様々なプ ランを案内していく。  6)①可能な範囲内で実施 を続ける②～④は Google クラスルーム、 外部のアプリ等を有効活 用し、各学年に合わせた 形式で実施する。  7)良い効果が得られてい るので、引き続き実施す る。  8)英語力の向上、社会で 役に立つスキル、プレゼ ン能力の向上のため、引 き続き実施する。

2 生活指導

自 己 評 価				評価サイクルの検証	次年度への課題と 今後の改善方針
重要課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	評価の根拠	
【生活指導】 規範意識の向上 (ルールを守る 心、モラルやマ ナーを守る心の 育成) に努め る。	全校レベル Ⅰ) 基本的な生活習慣の確立に努めるととも に、集団行動で必要なルールやマナーを 守ることのできる社会性を養う。 Ⅱ) 学校、家庭と連携し、けじめのある生活 を心がけ、責任のある行動がとれるよう にする。 Ⅲ) 他者との関係を調整する力やコミュニケ ーション能力を育成し、他人との違いを 理解し、広い世界観をもとにした考え方 ができる生徒を育成する。 Ⅳ) 学校生活上、問題を抱え、支障をきたし ている生徒・保護者に対する支援をする。	評価指標 1)①常時指導を行いながら全校集会や学年集会を通じて、服装指導を実施すると ともに、基本的な生活習慣の定着を行う。 ②制服の正しい着用の方法を確立し、常時教師が徹底して指導を行う。 ③授業の開始時間に遅れないよう、チャイムや時間に対する意識の定着を行 う。 ④遅刻者を前年度よりも減少させるため、生活指導部を中心に呼びかける。 ----- 2)①保護者との連携を図る。 ②各年次で適宜面談を実施する。 ----- 3)①ASC において、生命の尊重やいじめについての議題を話し合う ②通学路・電車内でのマナーの向上、及び交通事故ゼロを目指す。 ③盗難防止としての自己管理能力を高める。	1)B  2)A  3)A	服装に関しては防寒 着の規則を見直した ことから、教師・生 徒間で多少の混乱が 生じた。 遅刻に関しては昨年 度より減少させるこ とが出来た。 電車内でのマナー等 についてはもう少し 意識を向上させるこ とが必要である。 各長期休暇前には必 ず文章を配布し、安 全面等の指導を徹底 した。 全校集会等で登下校 のマナーについて徹 底した。	1)遅刻指導の徹底およ び基本的な生活習慣の定 着を行う。防寒着に関 しては、より良いもの になるよう今後も検討 を続けていく。  2)引き続き密に面談等 を行っていく。  3)学校アンケートを実 施し、いじめや登下校 についての実態を把握 していく。
	・下位組織レベル 基本的な生活習慣の確立 中学生・高校生として、学習にふさわしい態 度の指導 正しく制服を着用させる(セーターなど) 余裕をもって登校し、生活にけじめをつけ、 チャイム前に着席をする指導を行う。 遅刻指導の充実	活動計画 1)①服装指導(全校集会時) ②服装の再指導を行い、再指導になった生徒は定期的に確認を行う。 ③学年団の教師が休憩時間に見回りを行い、休憩時間の態度やチャイムを守る 姿勢の指導を行う ④生活指導部をはじめ、担任・副担任の協力のもと遅刻指導を行う。遅刻の多 い生徒は担任と生活指導部で3者面談を行う。 2)①長期休業前文章連絡・必要に応じて家庭への電話連絡。 ②適宜面談(4~5月)を実施する。必要に応じて回数の調整を行う。 3)①ASCを定期的に行い、いじめや生命の尊重、人権について様々な学年と話 し合う機会を設ける。 ②校門前、最寄りの駅から学校までの通学路(毎日)での指導を実施する。 ③個人用ロッカーを使用し、持ち物の管理を徹底させる。			

3 進路指導

自 己 評 価				評価サイクルの検証	次年度への課題と 今後の改善方針
重要課題	重要目標		評価	評価の根拠	
【進路指導】 生徒各自が進路設計をたて、自己目標を実現する	(全校レベル) (Ⅰ)進路相談の充実 (Ⅱ)本校の進路指導を保護者・生徒に広報し、理解を促す (Ⅲ)学力向上に向けた具体的取り組みを充実させる  (個別レベル) 1)個人面談の充実 2)大学入試に関する情報収集 3)大学入試に関する情報発信と啓蒙 4)進路設計に向けた系統的プログラムの実施 5)集中学習会の実施	《評価指標》 1) 高校全学年で個人面談を年間 3 回以上実施する。 2) 該当学年ごと「進路のしおり」または相当するビデオを発行する。 3) 予備校等が主催する入試傾向分析報告会等に対面・オンライン問わず参加。 4) 教育情報企業とも連携し、生徒への情報提供の機会を増やす。 5) 各学年の課題に応じた集中学習会を実施。 6) 校内での大学入試説明会・進路講演会の実施。  《活動計画》 1)①高 1・2 は定期試験後に、成績不良者を中心に問題点と改善策の指針を立て、模試返却後に、小問別の分析をし、優先的に復習すべき内容を伝達する。 ②高 3 は模試返却後に、自己目標に対して達成度が低い生徒を中心に、問題点と改善策の指針を立てる。 2)大学入試改革に関する報告会などには可能な限り参加し、情報をフィードバックするとともに対策を講じていく。 3)各予備校や塾の主催するオンラインセミナー、対面のセミナーに参加して情報を収集する。 4)教育情報企業による進路サポートツールを適時活用する。 1 年次：望ましい進路設計。職業観の形成。2 年次：大学・学部・学科の研究と受験勉強のスタート3 年次：志望校の確定。受験スケジュールの確認。教科別対策の徹底 5)高 1、2 は総合的学力の上昇を重視しながら個々の適性を早期に把握し、指導していく。高 3 は個々が目標とする志望校特性に応じた学力形成を重視。 1 年次：夏期校内集中学習会・春期校内集中学習会 2 年次：夏期校内集中学習会・春期校内集中学習会 3 年次：夏期校内集中学習会 6)さまざまな予備校等に依頼し校内で受験についての説明会について学期 1 回を目標に実施する。	1)A 2)A 3)B 4)A 5)A 6)B	1)主に昼休憩を用い担任が継続的に面談を実施している。  2)文理選択・科目選択・共通テストにかかわる動画等をクラスルームにアップ  3)の報告会のみオンラインで参加。  4)高 1・2 はリクルート・フロムページと提携し進路形成支援。また全学年を通じベネッセのハイスクールオンライン、マナビジョンを活用。また、他に河合塾・駿台・高松予備校・代ゼミ・メディカルラボ・富士学院のツールを活用  5)春・夏に約 1 週間の学習会を実施。  6)大規模なものとしては 7 月に約 20 大学を招いて全日実施する大学説明会を実施済。また、広島大学スタートアップ推進部門による講演を実施。学期に 1 回まではできていない。	1)継続  2)保護者の利便性を考え動画をグーグルクラスルームにアップするのを継続するとよいと考える。  3)資料を読めば十分な内容のものが多く、また複数の予備校営業の方と随時面談をしているため、進路としてはこのままでよいと思われる。  4)ツールは揃ってきており活用もできている。だが、さらに運用面や生徒への落とし込みを向上させたい。  5)現状維持。  6)医療系の講演会を追加したい

4 人権教育

自 己 評 価				評価サイクルの検証	次年度への課題と 今後の改善方針
重要課題	重要目標		評価	評価の根拠	
【人権教育】  特別活動の充実を図り、 様々な学年との交流で人権 についての多くの意見を取り 入れ、学校生活のあらゆる 場面で、相手の立場にな って考え、行動できる生徒 を育成するとともに、全校 生徒がよりよい学校生活を送 ることを目指す。	・ 全校レベル  Ⅰ)  自分の大切さとともに他人の大切さを認め、 様々な学年の意見を取り入れることによって人権 に対する感性を磨き、常に相手の立場に立って考 え行動することのできる人づくりを目指す。 Ⅱ)  日常生活の様々な機会を通して、人権が尊重さ れた環境づくりに努める。 Ⅲ)  他学年との話し合いの中で自分の要求を一方的 に主張するのではなく、他の人との人間関係を 調整する能力や自分とは異なった意見を受け入 れる基盤づくりを目指す。 Ⅳ)  人権問題に積極的に取り組む実践的な態度を身 につける。	評価指標 1)  特別活動を定期的に行い、生徒が積極的に参加し、充実さ せることができたか。  2)  特別活動後に生徒に感想を書かせ、回収しまとめ、生徒に フィードバックする。  3)  日常生活での人権についての話や特別活動での話し合いの 総括。	1)A  2)B  3)B	全学年の清掃場所の縦 割り班にて、円滑に人 権教育等の話し合いを行 うことができた。また、 全生徒を対象として学 期ごとに学校アンケー トを行い、さまざまな 意見を取り上げること ができた。	次年度も生徒の日常 生活の実態に沿った 問題を定期的に取り 上げ、今年度同様に縦 割り班での話し合い活 動の活性化をさせる。 また、活動後のフィー ドバックをLHRや全校 集会を利用して実施 し、生徒への人権意識 の浸透を図っていく。
	・ 下位組織レベル  1)  学校全体での特別活動の活性化 2)  特別活動の中で出てきた、印象に残る生徒の感 想の配布 3)  全校集会などの学校行事のなかでの啓発	活動計画 1)  特別活動についてもう一度確認し、幅広く人権について討 論できる議題で行う。 ----- 2)  特別活動終了後にクラスで出てきた感想の中で印象に残る ものをまとめ、生徒に配布する。 ----- 3)  全校集会において人権についての講演や映像を見ること で、特別活動の事後指導につなげられるようにする。			

5 特別活動

自 己 評 価				評価サイクルの検証	次年度への課題と 今後の改善方針
重要課題	重要目標		評価	評価の根拠	
【特別活動】 学校行事の活性化を図る。	《全校レベル》 集団活動を通して、集団や社会の一員としての在り方、考え方を育成するとともに、自己管理能力、自主的、実践的な態度を身につけさせる。 《下位組織レベル》 1) 学校行事を実施する。 2) 生徒会活動や各種専門委員会活動、ホームルームが連携するとともに、それぞれの活動を活性化する。 3) 年間を通して遅滞無く準備が進むように、早めの計画立案、準備を行う。	《評価指標》  1) 体育祭、学園祭において生徒による実行委員を組織し生徒自ら企画し、実施する。  特に学園祭においては外部の団体、組織と協力した企画を複数実施する。また実行委員企画のイベントの充実を図るとともに従来の企画の見直しを行い、各企画の改廃、新規の企画の実施を行う。  2) 体育祭、学園祭の実施にあたり生徒会だけでなく各クラスの委員会とも連携し、また生徒個人の企画などの募集を行い生徒一人一人の学校行事への関りを深いものにしていく。  《活動計画》  体育祭(6月)、学園祭（10月）を実施する。	1) B 2) B	1) 体育祭は体育祭実行委員、学園祭は生徒会及び学園祭実行委員を組織し活動した。しかし放課後の活動時間の確保が難しく、特に高校生においては毎日 8 限まで授業がある関係で放課後の活動時間の確保が難しい状況であった。  2)各委員会との連携も図り、生徒たちからも各種企画を募り実施を図ったが活動のための十分な時間の確保が困難であった。	生徒が学内で特別活動に従事する時間の確保が難しい状況は今年度も変わらず。現状ではこれ以上の充実は困難であると考えている。

6 環境教育

自 己 評 価				評価サイクルの検証	次年度への課題と 今後の改善方針
重要課題	重要目標		評価	評価の根拠	
【環境教育】 環境問題の理解と その解決への実践、 および身の回りの 環境美化の推進	(全校レベル) ① 環境問題に関心を持 つと共に自然や資源 を大切にする心を育 成する。 ② 校内外の環境美化活 動を推進し、公共心や 奉仕の精神の育成を 図る。 (下位組織レベル) ① リデュース・リユース・リサイクルを推進 する。 ② 節電・節水に取り組 む。 ③ ごみを最小限に抑制 する。 ④ 清掃活動に積極的に 取り組み環境の美化 に努める。	〔評価指標〕 ① 印刷用紙を昨年度より 20%削減を意識する。 ② 節電・節水を意識する。 ③ ごみの分別を意識する。 ④ 清掃に真剣に取り組むように意識する。 すべての項目それぞれにおいて 8 割以上の人が意識できるようにする。 〔活動計画〕 ① 保護者への案内文など、HP 上に掲載できるものは掲載し、印刷を控える。全学年クロムブ ックを利用し授業やテストのプリント印刷を最小限にしていく。 ② 毎月の電気・水道使用量を過年度と比較することで環境問題への意識を高める。クラス代表 に責任もって各教室のエアコン・電気の ON/OFF を徹底するよう指導する。 ③ 各クラスでゴミを最小限に抑えることを意識させ、ゴミの量を減らす。紙・ダンボールなど は、できるだけ資源ゴミとしてリサイクルを意識する。授業で利用したプリントを捨てない ように指導する。 ④ 校内の清掃を全員が時間いっぱい取り組む。縦割り清掃を実施し、先輩が後輩を指導する体 制を作り教員の監督なしでもきちんと清掃ができるようにする。必要に応じて全校清掃を行 い、校内外の美化に努める。リーダー・副リーダーを配置し意識改革を行う。	① B ② B ③ A ④ A	①配布物をオンライン配 信で済むものはすべて印 刷しないで配信した。授業 においても必要最小限の 印刷物にとどめた。削減量 が昨年度とあまり変化が なかった。  ②移動教室での授業時に エアコン・電気の消し忘れ がないように生徒・教員で 意識したがまだ消し忘れ があった。  ③ごみの分別に関しては、 各クラス内は可燃のみゴ ミ箱を設置し、外部から持 ち込んだ不燃ごみは持ち 帰ることを徹底した。  ④縦割り清掃を実施した ため先輩が後輩を指導す ることができた。各清掃場 所に教員を配置したが、何 もいわなくてもきちんと 清掃する生徒が増えたが、 清掃時間に遅れてくる生 徒も見られた。	①印刷ミスをもっと 少なくしていく。シ ュレッダー量を減ら すことを意識してい く。  ②教員が廊下を歩く 際にエアコン・電気 の切り忘れを常に意 識していく。移動教 室の授業では生徒に エアコン・電気を確 実に切るように指導 する。  ③不燃物の持ち帰り を引き続き徹底して いく。紙類のごみも 目立ったのでプリン ト類をきちんと整理 させていく。  ④縦割り清掃におい て、先輩に責任感を もっと持つてもら い、後輩の指導をし っかりと行ってい く。放送等を利用 し、掃除に遅れる生 徒がいないようにす る。